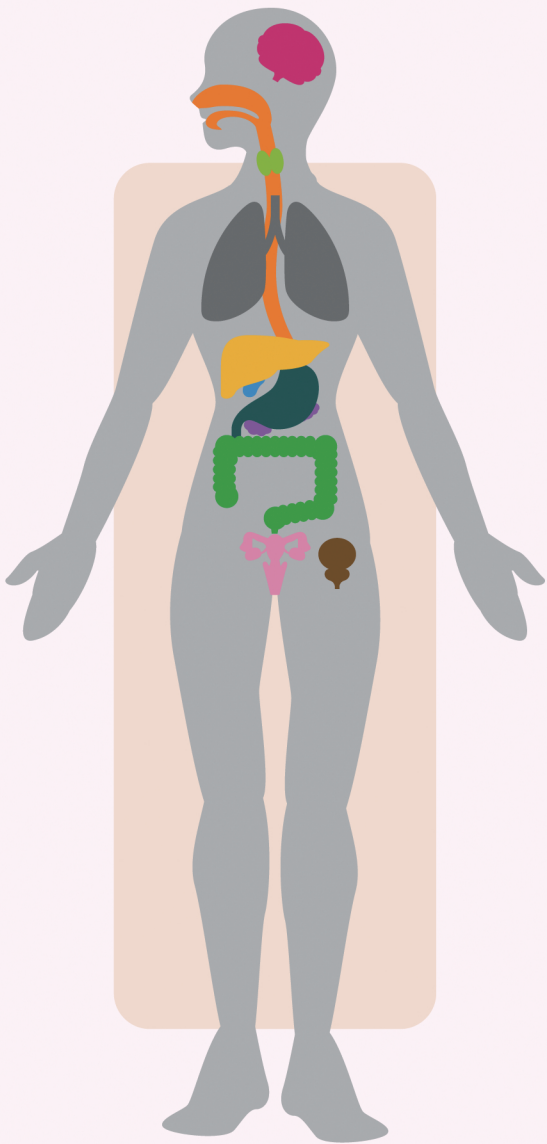


オプション検査のご案内

生活習慣や年齢によって発症しやすい病気は異なり、基本検査項目だけでは発見が非常に難しい場合があります。また、がんの罹患率は年々高まる傾向にあるため、**内視鏡検査やCT検査、超音波検査**を加え、積極的にがんの検査を受けられることをおすすめします。

南草津健診センターでは、部位別のオプション検査をご用意しています。検査項目や内容につきましてご質問等がございましたら、お気軽にご相談下さい。



対象部位	検査名	検査内容
脳	① 頭部MRI・MRA検査	頭部MRI・MRA検査
	② 甲状腺検査	視触診+甲状腺超音波+甲状腺ホルモン検査
甲状腺	③ 甲状腺ホルモン検査	甲状腺ホルモン検査 (TSH、FT3、FT4)
	④ 肺がん検査	腫瘍マーカー：CEA、シフラ、ProGRP、SLX、SCC
肺	⑤ 喀痰細胞診検査	喀痰細胞診
	⑥ 低線量胸部CT検査	低線量胸部CT
	⑦ 胸部X線検査	胸部X線検査 (1方向)
	⑧ 胸部X線検査	胸部X線検査 (2方向)
食道 胃	⑨ 食道がん検査 胃がん検査	腫瘍マーカー：CEA、SCC
	⑩ ペプシノゲン検査	血清ペプシノゲン検査
	⑪ ビロリ菌検査	血清ビロリ菌抗体検査
	⑫ 胃部内視鏡検査	胃部内視鏡
肝臓	⑬ 肝がん検査	腫瘍マーカー：AFP、PIVKA-II
	⑭ 肝炎ウイルス検査	HBs抗原、HCV抗体
	⑮ 腹部超音波検査	腹部超音波検査
が ん	⑯ 胆嚢がん、胆管がん 膵がん検査	腫瘍マーカー：CEA、CA19-9、 エラスターゼ I、DUPAN-2
	⑰ 腹部MRI検査	MRCP検査 (MR胆管膵管撮影)
大腸	⑱ 大腸がん検査	腫瘍マーカー：CEA
	⑲ 便潜血検査	便潜血2回法
男性 前立腺	⑳ 前立腺がん検査	腫瘍マーカー：PSA
女性 乳房	㉑ 乳腺超音波検査	視触診+乳腺超音波
	㉒ マンモグラフィ検査	マンモグラフィ (1方向X線検査)
	㉓ マンモグラフィ検査	マンモグラフィ (2方向X線検査)
	㉔ 視触診	マンモグラフィ+視触診 (単独受診不可)
	㉕ 乳がんセット1	視触診+乳腺超音波+マンモグラフィ (1方向X線検査)
	㉖ 乳がんセット2	視触診+乳腺超音波+マンモグラフィ (2方向X線検査)
女性 子宮 卵巣	㉗ 子宮頸がん 卵巣がん検査	内診+子宮頸部細胞診 (医師による採取) +経膈超音波+腫瘍マーカー
	㉘ 子宮頸がん	内診+子宮頸部細胞診 (医師による採取)+経膈超音波
	㉙ HPV検査	HPV (ヒトパピローマウイルス) 検査
全身	㉚ PET/CT検査	

そ の 他	骨粗しょう症	⑳ 骨密度測定検査 (DXA法)	骨密度測定検査 (腰椎+両側大腿骨頸部)
	女性 更年期障害 骨粗しょう症	㉑ ソイチェック	更年期障害：尿中エクオール検査
	心不全	㉒ BNP採血	
	頸動脈動脈硬化	㉓ 頸動脈超音波	
	動脈硬化検査	㉔ ABI・CAVI	
	脳梗塞・心筋梗塞	㉕ Lox-index	
	認知機能検査	㉖ MCI	
	生活習慣病	㉗ マイナイチンゲール	

検査方法						検査の説明
MRI	CT	X線	超音波	血液	その他	
●						脳梗塞や脳出血 (くも膜下出血を含む) のリスク、無自覚で発症した過去の病変の有無、脳萎縮の有無などを調べます。
			●	●	触診	甲状腺の病気は女性に多くみられます。超音波検査ではしこりや腫れの有無を調べることができ、甲状腺がんなどの発見に有効です。また血液検査では甲状腺ホルモンの分泌量を調べることで、甲状腺機能の状態がわかります。
				●		
				●	喀痰	肺がんは死亡率が高く、がん死亡原因の男性で第1位、女性で第2位となっています。タバコを吸う方はもちろん、身近に喫煙者のいる方も発生率が高いといわれています。小さながんや隠れたがんは普通のレントゲンでは見つけにくい④ 肺がん検査 +⑥ 低線量胸部CT検査 をおすすめします。低線量胸部CT検査の放射線被ばく線量は、通常胸部CT検査の1/10程度です。肺がん住民検診に導入された地域では、診断率の向上が報告されています。
	●					
		●				
		●				
				●		胃がんのリスクはピロリ菌に感染している人、中でも特に萎縮性胃炎 (胃の老化) が進んだ人で高いことがわかっています。
				●		ペプシノゲン検査では萎縮性胃炎 (胃の老化) があるかどうかを調べます。
				●		ピロリ菌検査とペプシノゲン検査を組み合わせることで「 胃がん発生のリスク 」の程度がわかります。
					内視鏡	
				●		
				●		肝がんのリスクであるB型肝炎、C型肝炎ウイルス感染の有無を調べます。
			●			肝臓・胆のう・すい臓・腎臓などの形態や病気 (脂肪肝や胆のうポリープ、臓器内の腫瘍や結石など) の有無を調べます。
				●		
●						腹部MRIは、すい臓や胆のう、肝臓などの形態異常を調べる検査です。特に一般的に異常を発見しにくい膵臓について、X線を使わないで、早期診断をすることが期待できます。
				●		大腸がんのスクリーニング検査です。便潜血が陽性で、痔出血の影響が否定される場合やご家族に大腸がんの方がおられる場合には、精密検査としての 大腸内視鏡検査 実施施設にご紹介させていただきます。
					便	
				●		中高年の男性に急増している前立腺がんの可能性を調べる血液検査です。特に50歳以上の方に おすすめします。 がんマーカー検査の中でも特に有用性の高い検査 です。
			●		視触診	女性のがん罹患率第1位。約11人に1人が乳がんになると言われています。早期発見できれば95%が治癒すると言われており、乳房温存手術も可能です。40歳未満の方には乳腺超音波検査、40歳以上の方にはマンモグラフィ検査をおすすめします。
		●				
		●			視触診	
		●			視触診	
		●	●		視触診	
		●	●		視触診	
			●	●	細胞診	近年、20代の若い女性にも子宮頸がんが増えています。経膈超音波検査は、子宮筋腫や卵巣腫瘍の発見にも有用です。腫瘍マーカー：CA-125、CEA、CA19-9、SCC
			●		細胞診	
					●	子宮頸がんの99%以上がHPV (ヒトパピローマウイルス) の持続感染が原因とされています。 ※必ず㉖あるいは㉗と一緒に受け下さい。
					PET/CT	全身スキャンによるがん発生臓器の有無を調べます。

(腫瘍マーカーについては、がんが無くても上昇する場合があります。)

		●				X線で腰椎と大腿骨頸部の骨密度を測定し、骨粗しょう症の危険性を調べます。骨量は20代をピークに年齢とともに減少するため、若いうちから対策が必要です。男女ともお受けいただけます。
					尿	ソイチェックでは、理想的な量の「エクオール」が作られているかを尿で測定します。「エクオール」は女性ホルモンと似た働きをし、更年期症状や骨粗しょう症との関係が指摘されています。
				●		心不全の有無や程度を、血液検査で調べます。
			●			頸動脈の狭窄の有無などを超音波で調べます。
					ABI・CAVI	下肢動脈の閉塞と血管の硬さを調べます。
				●		将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症危険度 (リスク) を評価する検査です。
				●		経度認知障害のリスクを調べる検査です。
				●		生活習慣病リスクを見える化する検査です。